ヘルスマーター

コロナ禍の子どもの皮膚トラブル

COVID-19の流行により、大人だけでなく、子どもたちも、身体的・精神的に様々な影響を受けています。今回は、その中でも、子どもの皮膚トラブルに関して、コロナ禍で特に増加している手湿疹(手荒れ)・マスク皮膚炎について紹介します。

手湿疹(手の接触性皮膚炎、手荒れ)

頻繁な手洗いや消毒薬による感染予防の重要性が広まり、幼稚園・保育所・学校でも、子どもたちへ日々指導が行われています。しかし、子どもの皮膚はもともと皮脂が少ないので、頻回の手洗いにより、皮脂が必要以上に落ちてしまい、皮膚のバリア機能が低下します。更に消毒液の科学的刺激も加わり、皮膚炎を生じてしまう子どもが増えています。

このような場合、手洗い後に毎回保湿剤を塗ることが理想です。しかし、実際にはなかなか難しいので、夜寝る前にケアをしましょう。炎症のある部位には抗炎症作用のある薬剤(ステロイド含有軟膏など)を塗布し、保湿剤で保護をします。

マスク皮膚炎

1日中マスクをつけていると、マスクの中は、おむつの中と同様の状態になり蒸れてしまいます。そこにマスク面と皮膚がこすれることで、皮膚炎を起こします。頬や口の周り、あご、鼻などに赤い肌荒れや、ぶつぶつ、ニキビを生じます。感染防御の点からは不織布マスクの使用が推奨されますが、布製のインナーを挟んだり、マスクの大きさを調節することで、顔とこすれる範囲を小さくするようにします。大きさは、顔にぴったりとフィットするものが良いでしょう。また手湿疹と同様に必要に応じて、軟膏塗布による治療を行います。

いずれも悪化する前の対応が大切です。お近くの小児科や皮膚科でご相談ください。